

「熟議 2012 in 香川大学」実施報告

はじめに

2012年3月3日(土)に「熟議 2012 in 香川大学」を、香川大学研究交流棟5階研究者交流スペースにおいて実施した。メインテーマを「地域とともに歩む大学づくり～香川大学の人材育成機能への期待を問う～」と設定した。熟議そのものへの参加者はおよそ90名、学外参観者がおよそ20名、学内スタッフ20名の総勢130名が会場を埋め、活気ある議論の場となった。長尾省吾香川大学長、合田隆史文部科学省生涯学習政策局長、平林正吉同生涯学習振興課長が主催者として、その熟議を終始参観し、最終的な提言を受けて講評するなど、会場は一体感あふれるものであった。本報告では、その熟議の模様とともに、その成果と課題についてまとめたい。

1 「熟議」開催の目的

今回の熟議の開催にあたっては、地域の要請に向き合う香川大学となるために、多様な主体が議論に参加する熟議の手法を用いて、香川大学の新しい未来像を形づくることを目指した。

香川大学は、地方に位置する国立大学法人として、地域密着型・地域貢献型の大学であることを目指している。一般的には文理バランスの良い大学としてとらえられる本学であるが、その実態(資源)が地元香川県民に十分に知られているとは言い難い。

本学は、地方国立大学として、社会の要請に応える有用な人材を育成し、輩出するという役割を担っている。香川大学憲章前文の中で私たちは、「個性と競争力を持つ『地域に根ざした学生中心の大学』」を標榜し、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を育成」することを宣言している。また、社会に貢献する大学として、「社会が抱える課題に対応した実践的提言」を行える機関、「地域医療の中核機関」、「知識基盤社会における学習拠点」となることで、地域の文化・産業・医療・生涯学習などの振興に寄与する、と宣言している。この香川大学憲章をよりどころに、今回の熟議を企画立案した。

ここで改めて、熟議とは何かについて、文部科学省の熟議サイト(<http://jukugi.mext.go.jp/>)で確認すると、以下のように記述されている。

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことです。具体的には、政策を形成する際の、下記のようなプロセスのことを言います。

1. 多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
2. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. 解決策が洗練され、
5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえつつ、課題に立ち向かい、乗り越えるための

知恵と実行力を生み出していくためには、教育現場に関わる様々な立場の方による「熟議」に基づく教育政策形成を促進することが求められています。

翻って、本学には「香川大学構想会議」があり、各界の代表者が参画し、地域に不可欠な大学となるよう大所高所から意見をいただいている。日常的には、中期目標・計画に基づき、本学教職員による自己評価・点検も実施している。そこから導き出される改善方策に基づき、可能な取組を行っている。そこで、これまで意見を聞き取れていなかった層をターゲットにして、多様な主体による、多面的な議論を展開いただくことを心がけた。テーマは、すでに触れた「香川大学の人材育成機能への期待」であるが、以下の通り4つのサブテーマを設定して、議論のポイントを絞ることにした。

①地域の高度な学びを支える大学となるように

大学には公開講座や講演会、企画展等の広く地域の方が学べる機会があります。社会人向けの大学院や夜間主コースなどの学位プログラムも準備されています。

②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように

6学部と9研究科(大学院)において、特色ある専門教育を行っています。キャリア支援センターにおいても職業指導・就職支援に取り組んでいます。

③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように

教育学部や医学部では教育・医療・福祉で活躍する人材を育成しています。公務員を志望する学生も近年増加しており、セミナー等の開催をしています。

④夢を語り、叶えられる大学となるように

全国から数多くの学生が入学しています。学生は授業で学ぶほかに、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動等から多くのことを学びとっています。

①は生涯学習社会における大学の役割、②は産業・経済界へ人材を輩出する大学の役割、③は公共をキーワードに学校教育・地方行政・地域医療・地域福祉に人材を送り出す大学の役割、④は高校生・高校教員のもつ大学への期待、を語っていただくという意図である。このことは、単に香川大学の未来像を描いていただくだけでなく、広く日本の高等教育機関のあるべき姿を描き出すことにもつながる議論になるのではないかと考えた。

2 熟議プログラム

<キャンパスウォーク(オプション)>

10:50 - 11:00 受付

11:00 - 12:30 キャンパスウォーク

幸町北キャンパス

①掲示板 → ②415教室 → ③博物館 → ④図書館

幸町南キャンパス

→ ⑤模擬法廷 → ⑥保健管理センター → ⑦グラウンド

→ ⑧サークルボックス → ⑨講堂

幸町北キャンパス

→ ⑩加野教授研究室訪問 → ⑪学生食堂 → 昼食・解散



キャンパスウォークは学生支援サークルMINtSの企画運営によるもので、高校生および高校教員を主たる対象として学内の主要な施設を案内した。企画にあたっては、高校生が興味・関心を持ちそうな場所をピックアップし、限られた時間の中で効率的に紹介できるよう、熟議担当教員と連携を図りながら進めた。最後に学生食堂で昼食をとりながら、高校生からの率直な質問に答えながら、交流を図った。参加した高校教員から、「フォーマルな大学訪問もよいが、このようなインフォーマルな関わりができる機会があれば、高校生ももっと大学を身近に感じることができるのではないだろうか。今日、参加できた高校生は本当によかったと思う。」という感想をいただいた。

<熟議>

12:30 - 13:00 受付

13:00 - 13:20 開会行事

長尾省吾 香川大学長挨拶

合田隆史 文部科学省生涯学習政策局長挨拶

細松英正 香川県教育委員会教育長挨拶



13:20 - 13:50 香川大学紹介

クイズで知る香川大学(学生支援サークル MINtS)

香川大学と地域貢献



13:50 - 14:50 第1セッション

地域の願いを探るー香川大学に求めるものー

15:00 - 16:00 第2セッション

その願いを実現させる具体的方策

16:00 - 16:30 全体発表

16:30 - 16:50 講評

長尾省吾 香川大学長

平林正吉 文部科学省生涯学習政策局生涯学習振興課長

16:50 - 17:00 閉会行事

熟議の詳細については、以降進行順に報告する。

香川大学紹介Part 1

～クイズを通して楽しく香大を知ろう～

香川大学 学生支援サークルMINtS代表
清國知広

クイッカーを使います！

- ・使い方は簡単です！
- 画面に質問が表示されます
- ↓
- 合図をしたら、時間内にボタンを押す！
- ↓
- 回答の分布が表示されます

イメージは「笑っていいも」の1/100アンケート^^



練習問題1:2012年2月1日現在、香川県の人口は約何万人？

1. 約60万人
2. 約80万人
3. 約100万人

正解:3

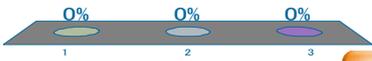


10
カウントダウン

練習問題2:野田総理大臣の名前は？

1. 克也
2. 佳彦
3. 幸男

正解:2



10
カウントダウン

香川大学クイズ

あなたは知っていますか？
香川大学のことを…。

- ・先ほどのクイズはほんの小手調べ…。
- ・次からが本番です！
- ・めざせ！香大マスター！

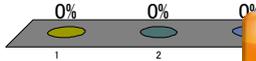


問1. 香川大学の学部はいくつあるでしょう？

1. 5学部
2. 6学部
3. 7学部

正解:2

(参考)近県の大学の学部数
徳島大学…5学部
高知大学…5学部
愛媛大学…6学部
岡山大学…12学部



10
カウントダウン

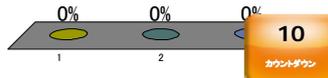
問2. 香川大学の教員数は下の大学のうちのどの大学とほぼ同じでしょう？

1. 関西大学
2. 立命館大学
3. 同志社大学

正解: 3

(参考) 学生数

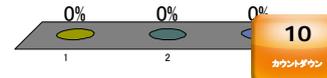
関西大学...約27,000人
立命館大学...約33,000人
同志社大学...約26,000人
香川大学...約5,700人



問3. 平成20年4月, 香川大学内に四国初の施設が誕生しました。それは次のうちどれでしょう？

1. 大学記念館
2. 大学植物園
3. 大学博物館

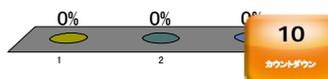
正解: 3



問4. 香川大学が所有している高額研究機器(取得価格1,000万円以上)のうち, 学外者でも使用可能なものはどれでしょう？

1. 自動飼育機装置
2. 人工気象室
3. 透過型電子顕微鏡

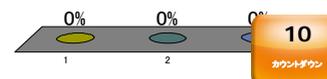
正解: 3



問5. 平成21年1月23日に, 工学部が開発した超小型人工衛星STARSの打ち上げが成功しました。その愛称とは次のうちどれでしょう？

1. GENNAI
2. KUKAI
3. OLIVE

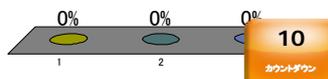
正解: 2



問6. 香川大学(前身校を含む)は, 今まで何人の内閣総理大臣を輩出しているでしょう？

1. 0人
2. 1人
3. 2人

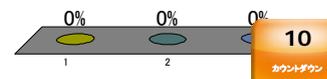
正解: 2



問7. リーズナブルな品々で学生をサポートする生協食堂の最安値のおかずは52円！それは次のうちどれでしょう？

1. 冷や奴
2. 金平ごぼう
3. ひじきいため

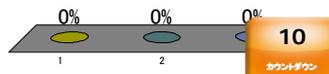
正解: 1



問8. 香川大学生の出身地の割合が正しく多い順に並べられているのは次のうちどれでしょう?

- ①香川県②岡山県③香川以外の四国3県
- ①岡山県②香川県③香川以外の四国3県
- ①香川以外の四国3県②香川県③岡山県

正解: 2



これでクイズは終了です

- みなさんいかがでしたか?
- このクイズを通して、少しでも香川大学への興味・好感度が増せば幸いです。
- これらのクイズで得た知識も頭の隅に置きながら、今日の熟議に臨んでいきましょう!

香川大学検定

- 以上のクイズは、「香川大学検定」に記載されていたものを転用させていただきました。
- 「香川大学検定」は2009年から2012年まで毎年編集・発行してきた香川大学クイズ本です。
- 興味のある方は是非持ち帰って他のクイズにもチャレンジしてみてください!



ご協力、
ありがとうございました。



熟議

2012 in 香川大学

香川大学紹介(PART 2)

特色ある教育プログラム



学生にインタビューしてみると...

あなたは大学でどんな力を身につけたい?

- 人前での発表が苦手なので、そのコツを知りたいです!
- 議論や討論にうまく参加できるようになりたいです!
- 自分から進んで色んなものごとに関われるようになりたいです!
- 仲間と一緒にチームで作業するときの心構えを身につけたいです!
- 他の人とはひとあじ違う発想力がほしいです!
- 気持ちよく人助けのできる人間になりたいです!
- パソコンやインターネットを上手に使えるようになりたいです!



正課外スキルアップ講座

香川大学

「スキル習得大になろう!」スキル習得大になろう!シリーズ

コミュ UP 進行力 UP 講座



13:00~
第一回 5月
 申込締切 5月

13:00~14:30
第一回 6月28日(火)
 申込締切 6月21日(火)

第二回 10月
 申込締切 10月

第二回 12月6日(火)
 申込締切 11月29日(火)

講師 藤本佳子 講師 清國祐二 (生涯学習教育研究センター)

学生の課外活動

香川大学



地域を元気に
 地域を元気にする活動として、地域貢献プロジェクトを実施しています。

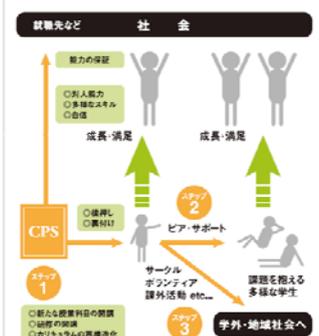
子どもたちと交流
 子どもたちと交流する活動として、子どもたちと交流する活動を実施しています。

スポーツで交流
 スポーツで交流する活動として、スポーツで交流する活動を実施しています。

地域での実践
 地域での実践活動として、地域での実践活動を実施しています。

育てたい学生像のひとつ

香川大学



以上の取組はカリキュラムの外で行われている教育プログラムです。体系的・系統的な学習とは性質を異にするものです。

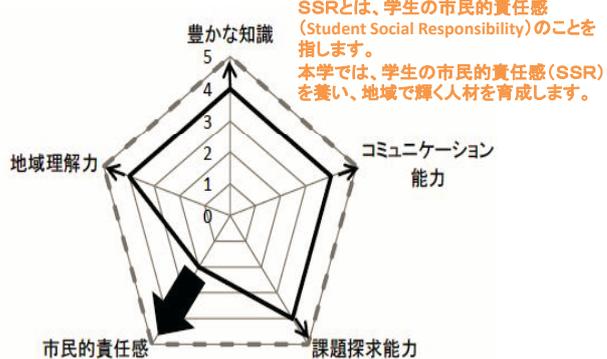
しかし、本当に必要な能力であるとなると、正規のカリキュラムの中でも取り上げる必要がありそうです。

そこで、香川大学ではどのような考え方でカリキュラムを改編しているのでしょうか？

市民的責任感(SSR)の育成

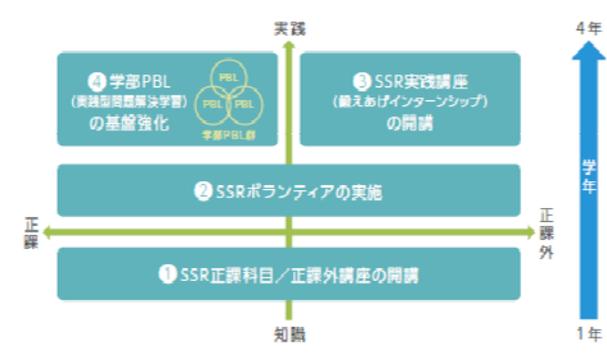
香川大学

SSRとは、学生の市民的責任感(Student Social Responsibility)のことを指します。本学では、学生の市民的責任感(SSR)を養い、地域で輝く人材を育成します。



実践力ある学生を輩出

香川大学



1 1年 2 2年 3 3年 4 4年

1 SSR正課科目/正課外講座の開講

2 SSRボランティアの実施

3 SSR実践講座(兼えあげインターンシップ)の開講

4 学部PBL(実践型問題解決学習)の基礎強化

5 学部PBL群

キャリア支援センターの事例

香川大学

産業人材育成フォーラム2012

参加無料

～若者の地元定着は 実践型インターンシップ から～

大学生が経験した 体験型とはちょっと違う 地元企業での 実践型インターンシップ について事例発表を行います。

開催日時/平成24年3月6日(火)
 13:00~15:30

地域社会と連携した教育プログラム



平成20～22年度 | 質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)

「現場主義に基づく地域づくり参画型教育」

地域づくりマインドをもった人材養成4年一貫型教育の実現をめざして

豊島での活動 田植えや稲刈りを行い、さらに新しい試みとして、夏に住民と合同で各種形式の講義が実施されました。豊島において日常であるものに価値を見出し、それを活用したまち歩き型の観光も目指しています。



遠隔教育(eラーニング)への取組



e-Knowledgeコンソーシアム四国(ek4)



大学の教育資源の開放・社会貢献



香川大学 公開講座 開催案内

研究センター 公開講座 受講生募集

10月からの開催

好奇心を、解き放たせよう。

香川大学公開講座

平成22年度 受講生募集

香川大学生進路学習教育研究センター

http://www.kagawa-u.ac.jp/teaching/index.html

大学博物館



ミュージアム・レクチャー

5/9	6/13	7/11
サイト・コレクション	フィールドワークで地球を渡る	イルカのからだは海のゴミ
9/12	10/10	11/14
雑草をみて聞いてみよう	昆虫の色や形にはどんな意味があるだろう	瀬戸内今昔観光鑑賞

危機管理研究センター



香川大学事業継続管理シンポジウム — 第2回「巨大地震災害への備え」—

日時：2012年3月26日(月) 13:00～16:35

場所：サンポートホール高松 6階 第61会議室

参加費無料
定員 140名

- 開会挨拶
主催者挨拶 (13:00～13:10)
大平 文和 香川大学 理事
産学官連携推進機構長
- 第I部 活動報告 (13:10～13:40)
『香川大学の事業継続計画(BCP)策定の視点』
白木 渡 香川大学事業継続計画策定等専門部会長
- 第II部 特別講演II (15:10～16:30)
『南海トラフ巨大地震による地震津波被害と四国への影響』
金田 龍行 氏
(独立行政法人 海洋研究開発機構 技術研究統括
地震津波・防災研究プロジェクトリーダー
香川大学危機管理研究センター 客員教授)

地域と大学との関係



ご紹介したものはほんの一部であり、実は地域と大学にはさまざまな接点があり、密接なつながりがあります。みなさんの意見をこの「熟議」においてしっかり受け止め、今後の連携に活かしていきたいと考えています。



香川大学図書館神原文庫

3 グループ発表

第1セッションおよび第2セッションを経て、各グループから報告された「提言」は以下の通りである。発表の内容も含めて記録にとどめておく。



Aグループ(テーマ①)

- 提言1 地域への情報発信強化に向けて県・市町と“交換広報”を行う。
提言2 地域の人が気軽に通える大学になるために県民大学登録制度を作る。
提言3 地域でかがやく人材を育てるために学生の地域活動の単位認定を拡大する。

大学の取組がなかなか地域に届いていないという課題がある。そこで、広報の強化を提案する。実現可能性の高いもの



として、提言1がある。大学も地方自治体も広報誌をもっているため、大学から地域へ広報したいことを県・市町の広報誌に掲載し、地域から大学に広報したいことを、大学の広報誌に掲載する。この交換広報を通して情報共有ができ、効果が高まる。

提言2は、大学を県民がさらに利用しやすくする提案である。誰でも香川大学への学生登録をするだけで、垣根が低く学ぶチャンスにアクセスできるというものである。提言3は、学生の力は地域の活性化につながる。本来は学生の自発的な地域活動が望ましいが、そこに導き入れるために単位化することを検討してはどうか。

Bグループ(テーマ②)

- 提言1 Mismatch 解消 四国八十八箇所 中小企業巡り
提言2 なが————い インターンシップ in 企業 NPO



よき企業人となるためには座学だけでなく、地域との接点をもち、自分自身を育てていくことが大事である。提言1では、お遍路にちなんで、大学が提示した88箇所の中小企業を巡ることで、地域のために頑張っている中小企業の実態を知り、就職への動機付けを行う。提言2では、大学生のうちに働くことの意義をもっと知るべきなので、そのための長期インターンシップを提案する。「働く」という意味では、企業だけでなくNPO法人も対象とすべきであろう。

Cグループ(テーマ②)

- 提言1 学生と大学が共に地域への関心を高められる学習機会をつくる
- 提言2 大学・企業間を自由に行き来できる学びシステムが欲しい



地域をよく知ることによってのみ、地域の特性を生かして活躍できる人が育つ。提言1は、大学教育は正課・正課外を問わず、地域での学習機会の充実を図る必要がある。学生も地域の中で自主的な学びの場を作るなどの努力が必要である。提言2は、大学と企業の間をある程度自由に行き来できるシステムが必要ではないかということである。企業人となってから学びたい大学の授業もある。一般の人、高校生も大学がどのようなところか知る場を設けて欲しい。そのための学びシステムがほしい。

Dグループ(テーマ③)

- 提言1 地域へ自ら歩める人づくり
- 提言2 地域と香大を結ぶ何でも窓口
- 提言3 香大生と地域との協働による熟議の開催

情報は待っていてもやってはこない。情報を得るためには、学生自らが行動しなければならない。提言1は、地域に対して関心を持ち、意欲的に行動できる学生を育てる必要がある、という意



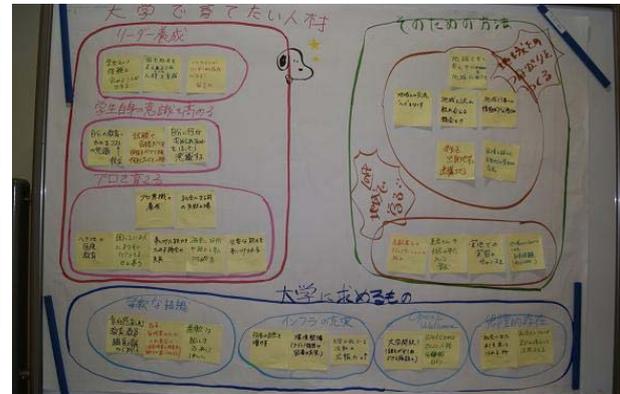
味である。提言2は、ワンストップサービスの必要性である。必要な情報がどこで手にはいるか判りにくい。情報窓口が一元化されることで、学生にとっても地域の人にとっても、情報へのアクセスが容易になる。その結果、地域と学生の距離が縮まることが期待される。提言3は、この熟議の経験を生かし、学生の主催する熟議の開催ができればよいのではないか、ということである。学生が地域の人を大学に招き込んで、さまざまな課題について議論できれば、活性化するのはではないか。

Eグループ(テーマ③)

提言1 ボランティア活動に参加し、地域の人からフィードバックを得る中で大学のイメージアップを図り、香大生としてのプライドを持つ！！

提言2 地域・大学・企業・行政の窓口情報システム(通称窓口くん)をクリックすれば、すべてのボランティア・インターンシップ・催しの情報がゲットできる！

提言3 すべてが先生 Project 垣根を越えての交流 先輩←→後輩 地域←→大学



大学と地域との間にある垣根を乗り越える必要がある。学生にとって地域とは「先輩」にあたるもので、多くのことを学ぶことができる「先生」に他ならない。そこで、提言1は、地域へのボランティア活動への参加によって、大学のイメージアップにつながると同時に巡り巡ってそれは自分たちに返ってくることを実感してもらいたい。香大生としてのプライドが生まれることも大事である。提言2は、地域との窓口のワンストップサービスが必要である、ということである。提言3は、文字通り「地域は先生」という思いで地域に関われば、学びも増すということである。学生の学びの多元化が求められている。

Fグループ(テーマ④)

- 提言1 学生カフェOPEN(仕入れから販売・宣伝まで)
- 提言2 学生による大学PR(パンフレット・DVD・ホームページ・グッズ)
- 提言3 かがユニ 割とええ献(奉仕活動をしたり成績を上げる→ポイントアップ)

大学生生活の課題を考
えることから始
めた。例えば、学
食のメニューが少
ないことや学生の
くつろげ

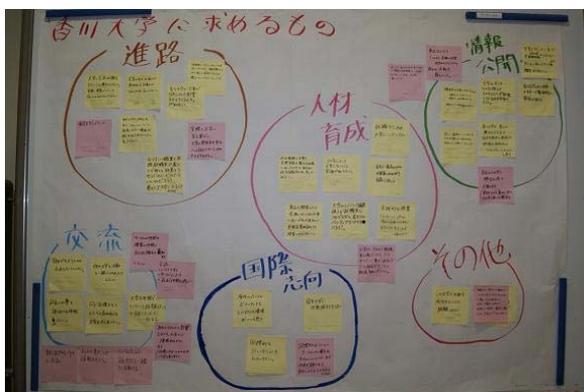


る場所が少ない、などを課題とする。それを解決する方法として、提言1の学生カフェを自主的に運営することを掲げる。学生の活動を見える化することで、モチベーションの向上や学生生活の充実につながると考えられる。提言2は、学生の欲しい情報が不足していることを受けて、必要な情報を学生の視点で発信することが有効であると考えた。自らが作成に関わることにより、香川大学に対する母校愛・誇りをもつことができると思う。提言3について、「割とええ献」の「割」は割引、「献」は貢献を意味している。奉仕活動などを行うことでポイントがたまり、このポイントに応じて学費の割引や学食メニューの無料券がもらえるようにする。短絡的ではあるが、インセンティブとして位置づけることに意味はあるだろう。これらの活動の結果、大学への愛着が増したり、地域や会社を大切にしたり、立派な大人へと成長できるのではなかろうか。



Gグループ(テーマ④)

- 提言1 大学と高校との交流
- 提言2 高校生が知りたい情報が掲載された情報誌の作成



熟議の中では、香川大学に求める意見が多かった。例えば、「大学と交流する機会をもっと増やして欲しい」とか、「実際に授業を受けている学生の声を聞きたい」などの要望である。一方、高校生にも出来ることがあり、「高校に大学の講師の方を呼んだり、大学の資料を自分達で集め

たりすること」は積極的にやっていくべきだ。提言2では、現在の香川大学の情報誌は、大学側が自己アピールの場として作成されており、学生や高校生の知りたい情報が少ないところに課題を感じている。そこで、学生が今知りたい質問を集めて、それに答える情報誌を作成することで、大学の魅力が増し志望者も増え、結果としていい大学づくりにつながると考えた。

Hグループ(テーマ④)

提言1 Our学 コミュニケーション



大学と地域が、そして学生同士がどのようにすれば相互に繋がることのできるのか、ということで議論が進んだ。現在ある、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)やフェイスブックは学生のみならず、多くの人のコミュニケーション・ツールとして定着しつつある。HPのような一方的な情報発信に終わらないようにすることが大切である。そこで提言1の「Our学」を提案する。名前の由来は、「Kagawa」を逆さまから読んで「あわがく」、それをもじって「Our学」とやや無理をしたネーミングである。香川大学の特色を存分に生かした、双方向の情報共有を目指すために、新しいコミュニケーションツールが必要である。

Iグループ(テーマ④)

提言1 大学の取り組みを社会にPRする

提言2 学生自らが地域と大学を結ぶコーディネーターになる

提言3 大学全体が一歩前へ進む精神を！ We can advance!!



学生がもっと積極的に地域に対して何らかのアクションを起こす必要がある。また、そのような積極的な学生がいることをPRすることで、積極的な学生を呼び込むことができる。このような望ましい循環をつくるというのが、提言1にあたる。提言2は、学生の能力のひとつとして「コーディネ

「ター」を位置づけることが重要ではないか、という視点である。提言3は、大学全体が積極的になる必要性である。大学にはまだまだ地域に踏み出せるのりしろが大いにあるので、その積極的活用を図る必要性がある。

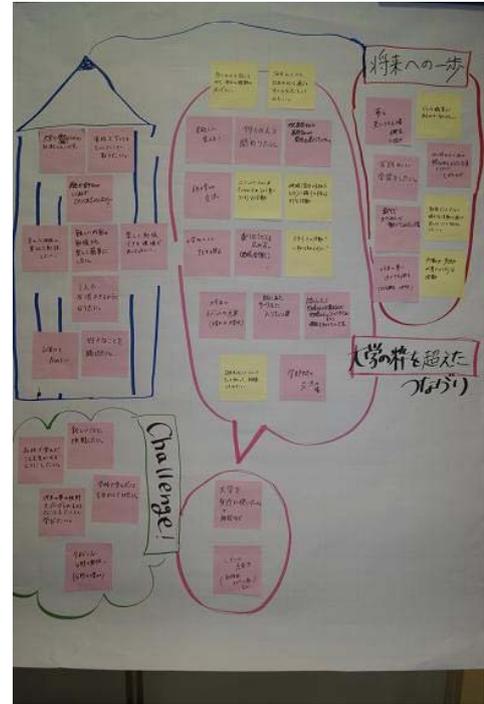
Jグループ

提言1 「Challenge なんでも受付所」をつくろう！！

大学に求めるものは何だろうと考えた結果、「夢を見つける場」



であり、「将来に向けての勉強をしやすい環境」であることが共通見解として浮かんできた。そのために、大学内外の繋がりづくりや共同イベントの開催が効果的ではないかとの意見があった。このような、学生の思いつきを形にするために、発案を受け付ける場所が大学の中にあることが望ましい。



4 熟議および提言への講評

1) 学長講評

まさに熟慮した討議の結果、斬新なアイデアを数多く出していただき感謝申し上げます。ご指摘の通り、大学からの情報発信が十分でないことには同意する。相手にとって有効な情報を確実に届け、相手方からも情報をいただける、相互性の高い情報交換が大事だと考えている。大学の発信した情報に対する皆様方からの要望をリアルタイムに反映するシステムを構築したいと思っている。



次に、学生の地域活動への参加を単位化することについては前向きに考えたい。一方、ボランティア活動は自発的な活動であり、無償性に基づく活動であるため、その意義を考えると熟慮の必要性も同時に感じている。まずは、大学という組織として参加表明している、例えば瀬戸内芸術祭等のボランティアには単位化を導入することはできるのではないかと考えている。

企業人育成に関していえば、本学卒業生が就職直後の5～6月ごろに、大学役員が企業に伺いながら、卒業生の社会人としての活躍ぶりを確認してみたいと考えている。企業に出向いて、直接現場の指導者から話を聞くことで、企業と大学との連携がさらに深まるからである。

大学と企業とを自由に行き来できるシステムについては、知材センターなどで一部行われているが、特定の領域に限られているのが現状である。一般の方々も含めて、広く大学と企業、大学と地域がつながっていけるよう、工夫してみたい。

最後に、今回は高等学校からの参加が非常に多く、香川大学への関心が高いことを嬉しく思う。県内を中心に高等学校を訪問して学校説明会を行っているが、県外へも厚く広げたい。また、高校生との対話の中で、高校生が本当に欲している情報を発信していきたい。

2) 文部科学省平林課長講評

今回の熟議は、年齢的に見れば、ご高齢の方から、壮年期の方、大学生、高校生と幅広く、業種も行政、教育、医療、企業、NPO等、多様な参加者によって行われ、とても意義深い内容であったと感じている。

テーマが抽象的であったため、提言をまとめるのに苦労があったと思うが、最終的には具体的な提言が数多く発表されて、とても感謝している。改めて情報発信の重要性をご提起いただいたと思っている。



また、大学生や高校生が自ら主体的に行動する提案を多々していたことに感心した。今後のさらなる活躍を期待させるものであった。

今回の熟議を通じて、香川大学を地域に開かれた大学にしていこうとする気持ちがひしひしと伝わってきた。非常に具体的な提言であったので、今後は、大学内の熟議によって提言の実現性について更に議論を深めていって欲しいと思う。

これをきっかけにして、引き続き地域に開かれた大学、地域に貢献する大学づくりに取り組んでいただきたい。

5 成果と課題

今回の熟議は「地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議」として、文部科学省との共同主催の形をとった。初めての経験でもあり、清新さを感じた反面、準備段階において多少の戸惑いがあったことも事実である。しかしながら、そのことによって本学の教員と職員の一歩踏み込んだ連携が図れ、大きな財産となったと確信している。

熟議の参加者として、多様な主体に加わっていただいた。香川県、高松市、丸亀市、多度津町等の行政職員、香川県内の優良企業の職員、香川県と岡山県の高等学校教員および生徒、香川大学と親交の深い地域住民、まったくの一般参加、香川大学生および私たち教職員等、総数90名におよぶ参加者であった。参加者が多様であったため、議論が噛み合うかどうかを心配したが、それは杞憂に終わった。熟議のグループ成果は記述の通りであるが、熟議中盤あたりからどのグループも立ち上がって課題整理をし、提言に結びつけようとする取り組みの姿勢が成果の一部を物語っていると言えよう。

一方で、限られた時間の中で、参加者の思いを相互理解し、総意をまとめあげようとするには大きな負荷がかかったと思われる。各グループに配置されたファシリテーターが促進者としての役割を十分果たしたからこそ、導くことのできた成果であるとも言える。今回、ファシリテーターには教員のみならず、職員にも担当してもらった。これは4年間にわたって取り組んだ学生支援GP（「主体性の段階的形成支援システム（CPS）」）における「教職員の協働」の取り組みの成果でもある。教員と職員の垣根をできるだけ低くして、協働可能な部分を見つけ出し、企画段階からチームとして取り組んだ結果である。この熟議という晴れ舞台上、その成果が確認できたことは関係者の喜びにもつながった。

他方、課題も残った。全学的な取り組みにしたいという思いがあったにもかかわらず、結果的には教育・学生支援機構および教育・学生支援室の中でほぼ完結してしまったということである。大きな組織にすると小回りが利かず、余計な労力が発生するわけだが、小さな組織で動かすと、他部局や事務局の当事者意識が薄らぎ他人事となってしまうことがよくわかった。今回の熟議はイベント性が強く、そもそも継続を前提としていなかったため、それでも十分実施できたわけであるが、私たちにとっては今後の大きな課題となった。上で「イベント性が強い」と述べたが、これをきっかけとして学内外の多様な主体が集まってテーマに沿った熟議を行うことへの関心は高まったと理解している。今後は少し小規模な開催にはなるであろうが、学生の有志とも相談しながら、継続の方向で検討に入りたい。

最後に、今回の熟議にご参加いただいたすべての皆様に、またそれを支えて下さった文部科学省生涯学習政策局の皆様、ならびに本学教職員に心より感謝申し上げます。



KAGAWA
UNIVERSITY

求む!

地域の大学づくりに皆様のご意見を

熟議

2012 in 香川大学

地域とともに歩む大学づくり

～香川大学の人材育成機能への期待を問う～

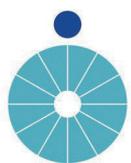
- 日時** 平成24年3月3日(土)
13:00～17:00
- 会場** 香川大学研究交流棟5階
研究者交流スペース(幸町北キャンパス)
- 対象** テーマに関心のある方
100名(先着順)
- 締切** 平成24年2月20日(月) **参加費** 無料

目的・ねらい

未来の社会をつくっていくには、さまざまな主体の協働がかかせません。その中において、香川大学も社会に有用な人材を輩出し、豊かな教育資源を活かして地域の学習拠点となることを目指しています。その一歩として、地域の皆様にご参加いただき、「熟議」を通して香川大学の未来像を語り合ってください。この熟議の成果は香川大学にとどまらず、地域と共生する大学づくりに示唆を与える貴重なものとなります。

解説

「熟議(じゅぎ)」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことです。詳しくは、文部科学省のサイト「熟議カケアイ」をご参照下さい。<http://jukugi.mext.go.jp/>



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY/JAPAN

地域と共生する
大学づくりのための
全国縦断熟議

お問合せ・お申込み先 香川大学生涯学習教育研究センター

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号

TEL/087-832-1273 FAX/087-832-1275

[E-mail] syogse@ao.kagawa-u.ac.jp [URL] <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/>

[主催] 香川大学 文部科学省 【後援】 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会

熟議

2012 in 香川大学 地域とともに歩む大学づくり

～香川大学の人材育成機能への期待を問う～

【サブテーマ】意見募集!

①地域の高度な学びを支える大学となるように

大学には公開講座や講演会、企画展等の広く地域の方が学べる機会があります。社会人向けの大学院や夜間主コースなどの学位プログラムも準備されています。

②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように

6学部と9研究科(大学院)において、特色ある専門教育を行っています。キャリア支援センターにおいても職業指導・就職支援に取り組んでいます。

③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように

教育学部や医学部では教育・医療・福祉で活躍する人材を育成しています。公務員を志望する学生も近年増加しており、セミナー等の開催をしています。

④夢を語り、叶えられる大学となるように

全国から数多くの学生が入学しています。学生は授業で学ぶほかに、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動等から多くのことを学びとっています。

【オプション】キャンパスツアー

キャンパスウォーク 11:00~12:30

高校生や一般参加者向けのキャンパスウォークで、本学学生がご案内します。昼食は、学生食堂が利用できます。

集合時間 平成24年3月3日(土) 10:50

集合場所 香川大学研究交流棟玄関ロビー

【プログラム】

12:30~13:00	受付	14:50~15:00	休憩
13:00~13:20	開会行事	15:00~16:00	第2セッション「その願いを実現させる具体的方策」
13:20~13:50	香川大学紹介	16:00~16:50	発表・講評
13:50~14:50	第1セッション「地域の願いを探る—香川大学に求めるもの—」 4つのサブテーマについてグループに分かれて熟議します	16:50~17:00	閉会行事

熟議の進め方

1 サブテーマごとに10人程度のグループをつくります。グループ数は10~12を予定しています。

2 グループには、進行役とコメンテーターが一人ずつつきます。進行役がリードしながら、参加者の皆様から多様なご意見をいただきます。

3 全員で熟議して、一定の方向性を導きます。大学づくりへの提言となるよう、意見をとりまとめます。

4 グループの代表に発表いただきます。それらを聴いて、主催者がお応えします。

「熟議 2012 in 香川大学」参加申込書

お申込み締切日／平成24年2月20日(月)

E-mailまたはファックスにてお申込みください。なお、先着順となりますのでお早めにお申し込みください。ご参加いただく方へは、2月24日(金)をめどに、案内状・要項を郵送いたします。

FAXでのお申込み **087-832-1275**

E-mailでのお申込み **syogse@ao.kagawa-u.ac.jp**

ふりがな		性別	男・女	年齢	歳
氏名		E-mail			
電話番号	— —	参加希望テーマ 参加したいサブテーマの()に希望順に数字を入れてください。 ()①地域の高度な学びを支える大学となるように ()②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように ()③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように ()④夢を語り、叶えられる大学となるように(学生対象)			
住所	〒	キャンパスウォーク参加 ※参加希望の方は○印を付けてください。			
職業 (会社名・学校名等)					

★個人情報は本事業以外に使用致しません。